

4830 号

2012 年 8 月 3 日

伝書鳩

全国一般労組・全国協議会
安倍川製紙労働組合
静岡市葵区田町 3-5-6
電話 054-271-7302
岩淵構内電話 340
abekawarouso@room.ne.jp

王子の社運をかけた 2000 億円南通工場 排水配管工事がとん挫

先週末の 7 月 28 日、中国江蘇省南通市啓東の政府庁舎前に地元沿海部の住民が集まり、王子製紙の排水パイプライン工事への抗議行動を展開。南通市長は工事中止を発表したことが翌日、日曜朝刊の一面をにぎわせました(裏面は東京新聞 29 日 11 ページ)。

環境汚染に黙らなくなった中国人

パイプラインの排水口は上海の北 50 キロ余りの有名な漁場だそうです。

今回の事件について不十分ながら推測すれば、

- ① 長い間野放しになってきた中国の環境汚染に地元の人たちが怒ったのです。このような形での工事中止は決して珍しいことではないようです。もちろん、それ以上に工事や運用が続けられているものもたくさんありますけれど「変化」を理解すべきです。
- ② 地元の人たちに排水に関する十分な情報がもたらされていない。腐敗して信用のない政府役人の一方的な「GO サイン」に不満が出るのは当然でしょう。



理解してもらえる計画だったのか

日本の製紙業は 1960 年代の高度成長の時代、田子の浦のへドロに代表されるように海や空を汚し「反社会的企業」となったにがい過去があります。王子製紙グループが企業行動憲章で「環境との調和」をうたっているのも当然のことといえます。

憲章通りならばあり得ないことですが、もし「中国ならこれくらいの汚染は当然」と、中国の規制レベルを盾にするのでは、世界に展開する企業としては失格であり、現地の理解を十分に得られなければ社運をかけた 2000 億円の工場は立ち行かなくなります。

底辺には日本と通じるものがある

なによりも長い間、原発の危険性に気が付いていなかった日本人たちも、昨年 3 月 11 日以降その危険性やでたらめさに気がついて、大飯原発の再稼働には抗議の声で首相官邸を包囲し、全国各地で同時刻アクションが広がって先週は静岡市を含めて 48 ヶ所で行われています(今日からは富士宮でも)。その日本の企業なのですから、中国の生活者からも環境や安全に厳しさが求められるのは当然です。

まずは地元の人たちに理解してもらえるように地元政府まかせでない説明や話し合いを持つべきです。